

弥生人の一生がここに

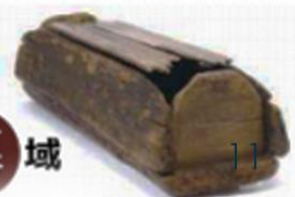
弥生人は、地形を巧みに利用し、小高い乾いたところに住居を建て環濠をめぐらせた『居住域』を定め、低湿地を『生産域』として水田を営み、やや離れたところに『墓域』を設けたことが明らかになっています。この3つの要素がそろって見つかっているのは、全国でもここ安満遺跡だけ。ここには弥生人の一生が凝縮されています。ぜひ歴史のロマンをご堪能ください。



弥生土器



出土した農具



弥生人の木棺

1 1. 弥生人の一生がこの安満遺跡に

弥生人は、地形を巧みに利用して生活していました。

下記3つの要素が揃って見つかった史跡は、全国でも安満遺跡だけです。

1) 居住域

- (1) 小高い乾いたところに住居を建てています。
- (2) 環濠を巡らせています。

2) 生産域

- (1) 低湿地を「生産域」として水田を営んでいます。

3) 墓域

やや離れたところに「墓域」設けたことがあきらかになっています。



組合せ式木棺



乳児用と見られる土器棺



左：赤漆塗りのクシ
右：カンザシ

安満遺跡では、漆塗りのクシやカンザシが出土しました。

これらが縄文時代の遺跡でよく出土されていることから、このエリアでは縄文人と弥生人が出会い、共生したのではないかとされています。